

図録内容のご紹介

| 品名 | 内容 |
|---|---|
| 肖像画の魅力 一歴史(とき)を見つめた眼差し 販売価格 1,000円 (送料340円) | 歴史上の人物の容姿を描いた肖像画は、現代の私たちにとってその人物をイメージする上で欠かせないものとなっています。古来、日本では似顔絵など像をよしとしない風潮がありましたが、像主の面影を描き伝えたいという思いから、生前に描く寿像(じゅぞう)や没後に描く遺像が作られてきました。また後世に物語や伝説などからイメージして絵師が描いた歴史的人物画(想像画)とよばれる作品が作られました。江戸時代も半ばを過ぎると肖像画の像主、描き手、表現方法に変化があらわれます。特に「絵師」以外の者が描いた肖像画は、中国や西洋の技法が導入され、より写実的な方向に向かいます。幕末期から明治にかけて写真の技術が入ってくると、絵画と写真との新しい関係が成立します。写した写真をもとに絵画を描くという方法です。 本図録では肖像画が描かれた意味を考えるとともに、特に近世期の肖像画制作における技法に着目し、その表現方法の源泉を明かそうと試みました。肖像画自体が歴史(とき)の流れを見つめながら、今の私たちに投げかける「肖像画の魅力」を感じ取っていただきたいと思えます。 |
| 妖怪見聞 販売価格 1,000円 (送料340円) | もののけ、あやかし、魍魎魍魎(ちみもりょう)、異形のもの……。いろいろな呼び方をされてきた妖怪たち。妖怪の伝承は人々の暮らしの中で、ごく自然なかたちで語り継がれてきました。 本図録では、妖怪について記された和書や妖怪の姿を描いた絵巻物、錦絵、草双紙などを紹介するとともに、秘蔵されてきた天狗・鬼・河童・人魚のミイラ、天狗や河童が人間に渡したとされる詫言や河童が人間に伝えたとされる秘伝の妙薬なども併せて紹介し、日本の歴史や社会の中で妖怪がどのように生み出され存在したかについて考えていきます。さらに県内に残る伝説や民話、祭りや行事に登場する妖怪を取り上げ、時代とともに語り伝えられてきた人間と妖怪との関わりについても探っていきます。 |
| 図説 茨城県のあゆみ 販売価格 500円 (送料290円) | *当館の常設展「茨城の歴史をさぐる」をもとに、小・中学生向けに分かりやすく解説した図録です。 私たちの住んでいる茨城県には、歴史を伝えているものがたくさん残されています。 本図録は、古い道具や史料を集めている当館の展示をもとに、茨城県のあゆみをまとめたものです。教科書とつよに勉強したり、茨城県の歴史を調べたりする資料として、ぜひ活用してください。 |
| 改訂版 一橋徳川家名品図録 販売価格 1,200円 (送料340円) | 一橋徳川家は、8代将軍徳川吉宗の4男宗尹が江戸城一橋門外に屋敷を賜ったことにはじまります。田安・清水の両家と共に御三卿と呼ばれ、賄料として十萬石を与えられ、将軍の身内として処遇されました。まとまった形で残されている一橋徳川家の史資料は、御三卿の姿を理解する上で重要な意義を持っています。 一橋徳川家より、昭和53年11月に離人形等が、さらに昭和59年2月には伝世の家宝及び文書記録類の一切が本県に寄贈されました。昭和62年10月、本県は寄贈を受けた文化財を後世へ伝えるため、当館に「一橋徳川家記念室」を設置し、テーマ毎に展示公開を行っています。 本図録は、寄贈された名品の中から、広間の床飾りや武具、社交の場として用いられた茶道具・能道具などの「表道具」、私的に用いられた婚礼調度や雛飾りなどの「奥道具」、さらに文書等を掲載し、将軍家に最も近い存在であった御三卿の生活を紹介しています。 一橋家の史資料により、御三卿についての認識を深められ、さらに御三卿の美意識や文化について感じていただければ幸いです。 |
| 頼重と光圀 兄弟の絆 販売価格 1,000円 (送料340円) | 2011年の今年は、水戸藩第2代藩主徳川光圀が藩主に就任して350年目にあたります。光圀は「水戸黄門」として広く知られていますが、自ら中心となって『大日本史』編纂を始めました。この事業は、わが国の歴史学史上に大きな足跡を残したのみならず、幕末に大きな影響を与えた「水戸学」を生み出しました。 自由奔放な少年時代を過ごしていた光圀が学問に目覚めたのは、司馬遷の『史記』伯夷伝を読んだことでした。伯夷と叔齊の兄弟愛を描いたこの物語は、兄を差しおいて藩主を継ぐことになっていた光圀に大きな感動を与えたのです。そして光圀は藩主に就任するにあたり、つぎの藩主は高松藩主である兄松平頼重の長男に継がせることを明らかにします。兄こそが水戸藩主を継ぐべきであった、という思いを次の世代で実現させることになりました。 一方、頼重は家光によって下館5萬石の大名に取り立てられ、のちに讃岐高松12萬石に移されます。そして父頼房、弟光圀からは、水戸徳川家伝来の宝物がいくつつか贈られました。 この高松松平家は、会津松平家、彦根井伊家とともに歴代当主が江戸城内溜間に詰め、将軍の政務の諮問に応じるという重要な役割を担うことになりました。 本図録では、こうした頼重と光圀をめぐる人びとやゆかりの品を通して、兄弟の生涯を紹介しています。 |
| 立原杏所とその師友 販売価格 800円 (送料340円) | 大日本史編纂事業を中興した彰考館総裁立原翠軒の子として水戸に生まれた立原杏所は、父の元に出入りしていた林十江や下野黒羽の小泉斐らに画を習い、やがて十江とともに「水戸の南画」を代表する画家へと成長しました。 杏所は二十代の末に江戸・小石川の水戸藩邸勤務となり、この地で他の南画家や文人と交流をするようになります。翠軒と交流があり、以前から指導を受けていた江戸南画の巨人谷文晁、その画塾山楼に出入りし、交流した渡辺華山、椿椿山、高久露荘といった面々です。 江戸での杏所は藩主の信任も厚く、武士としての忠勤に励みつつ画道に精進し、一家を成しました。また、書や篆刻、鑑識などにも優れ、いわゆる「文人」の一人としても活躍しました。 本図録では、杏所の生涯にかかわった人々の資料を交えつつ、没後170年にあたる今年に水戸と江戸をつなぐ「南画家」、そして武士(武人)でありながら「文人」の粋を追求した立原杏所の世界を作品と史資料で紹介しています。 |
| 茨城県立歴史館シンポジウム報告書 中世常陸・両総地域の様子 一発見された井田文書 販売価格 900円 (送料340円) | 井田文書は、上総の領主として戦国時代を生き抜いた井田氏に伝わる文書で、中世常陸・両総地域の歴史を明らかにする史料として古くから注目され、近世にはその写しが作成されました。しかしながら原本については、水戸藩の幕末の動乱の中で紛失して現存しないと考えられておりましたが、一昨年にその所在が確認され、当館に寄託されました。 平成21年11月7日に開催されました歴史館シンポジウム「中世常陸・両総地域の様子一発見された井田文書」では、約100名の方々のご参加のもとで、最新の歴史学研究成果によるご講演やご報告をいただき、井田氏の領主としての性格や動向について検討することができました。本書はこれらの研究成果をまとめたものであります。 |
| かがやきにこめた権威と荘厳 一金と銀の考古学 販売価格 800円 (送料340円) | 金と銀の輝きは古代から人々を魅了し続けています。特に金はその輝きと希少性に加え、耐錆性に優れ、展性に富むことから貨幣や装飾品に利用されてきました。わが国は、弥生時代に金と銀に出会い、古墳時代には金と銀を用いた装身具や武具とともに加工技術が大陸から伝わり、次第に地方権力者にまで金と銀の魅力は浸透していきました。また、平安時代には貴族により光り輝く経筒や仏像が未来に向けて埋納されました。この世から来世に伝える荘重な世界を感じることもできます。さらに、中世・近世には鉱山の開発による金銀の産出量の増加と金工技術の発展により、多くの金・銀を用いた場面が登場しました。屋根を飾る金箔の荘厳はその代表的なものです。 本図録では、各地の古墳や城跡から出土した金・銀で装飾された考古資料をもとに、権力者である被葬者の姿や中央権力との関係などを探るとともに、人々を引きつける金・銀の魅力を紹介しようとするものです。 |
| 浅原コレクション 日本人形の美と幻想 販売価格 2,000円 (送料340円) | 本図録は、日本有数の人形コレクションとして知られる浅原革世氏所蔵の作品により、広く人形の世界を紹介するもので、日本人形の全貌をつかむことができる本格的な図録です。 人形のはじまりの天児・遣子から近代の創作人形まで、雛人形や江戸時代に誕生した嵯峨人形、御所人形、三つ折り人形、加茂人形など500を超える人形を収録しております。 |
| 祭り万華鏡一茨城の年中行事・その変様 販売価格 1,000円 (送料340円) | 祭り、祭礼、祭典、祭祀、祭事、祭儀……。祭りには、ニュアンスの違いがあるにしても、いろいろな呼び方があります。祭りをを行う姿も多彩で、地域の神社、寺院で行われる祭りや、家々で行う年中行事、節供、さらには信仰を離れ、商業化した祭りがあります。祭りをを行うことの意味や内容も大きく変貌してきました。それはさながら円筒をくるくる回すごとに中の模様様が様々に変化する万華鏡のように思えます。 本図録では、日本の主な祭り、年中行事、節供は、中国から奈良・平安時代の貴族社会に移入されたといわれ、その祭りの根源や個々の祭りが持つ意味を探るとともに、自然と共に生き、暮らしてきた人々の生活文化である祭りを紹介しています。 |
| 奥原清湖 販売価格 3,000円 (送料340円) | 奥原清湖は古河に生まれ、幕末から明治にかけて活躍した女流南画家で、「清湖の東海描き」といわれる豪放な筆致の作品は、維新間もない世の気合と合致してもてはやされました。 やがて、南画、文人画の凋落とともに、清湖は東都を離れ中央との交渉を建ち、書画三昧のうちに生涯を終えました。 本図録では、最初期から最晩年までの清湖芸術が堪能できる清湖の全画業を紹介しています。 |

| | |
|---|---|
| <p>鉄の意匠Ⅱ</p> <p>販売価格 3,000円 (送料450円)</p> | <p>世界に比類のない殊絶の美術品といわれる「日本刀」は、いうまでもなく戦闘用具＝武器として誕生したのですが、この刀剣に武器以外の役割をもたせ、永く後世に伝え続けたことは日本の特色ある文化の一つでした。例えば、皇位の象徴である「三種の神器」の剣のように神宝化したり、祈願のために神社に奉納したりする宗教的習慣が古い時代から行われてきました。</p> <p>一方、日本刀には人々を魅了する美しさがあり、平安時代末期以来の刀剣鑑賞からみても、日本人特有の感性がその美を感得し、武器ならぬ「美術品」としての日本刀を現在の私たちに伝えてきたものと思われまふ。</p> <p>本図録では、茨城県内において所蔵する名品の数々を紹介しています。</p> |
| <p>一橋徳川家の人形 歴史館のひなまつり</p> <p>販売価格 1,000円 (送料290円)</p> | <p>一橋徳川家十二代当主徳川宗敬氏により寄贈を受け、その資料をもとに当館では一橋徳川家記念室を開設し、展示を行っております。</p> <p>この一橋徳川家に伝えられた数々の所蔵品には、將軍家より拝領の品とともに公家出身の夫人が輿入れの際に持参した道具類などがあり、將軍家に近い大名家の歴史を語り伝えるものとして極めて重要な意義をもっております。</p> <p>本図録では、歴代の夫人に伝えられてきた雛人形、御所人形などを紹介しております。</p> |
| <p>海と川に生きる一漁具 と漁法一</p> <p>販売価格 2,000円 (送料340円)</p> | <p>茨城県は、180kmに及ぶ海岸線、霞ヶ浦などの湖沼、利根川・那珂川などの河川があり、それらの水利を利用した漁業は古代から現代にいたるまで盛んに行われています。特に内水面では、魚の習性・河床の状態や流れの様子など、長い経験から得た知識に基づいて、刺突漁具や誘引・誘導漁具などを使った伝統的な漁法が地域ごとに見られます。</p> <p>本図録では、県内の海や河川・湖沼において、かつてどのような魚を、どんな漁具と漁法を用いて採捕していたかを検証し、併せて先人たちの魚への知恵と巧みなかわり方などを紹介しています。</p> |
| <p>一祈りの歴史と民俗一 絵馬</p> <p>販売価格 2,000円 (送料340円)</p> | <p>絵馬の起源は古く、すでに奈良時代には絵馬の奉納がみられます。絵馬という呼称の由来は、生き馬を神馬として奉納する代わりに、絵に描いて捧げたことから言われています。室町中期以降になると、多様な画題が取り入れられ、大型化していき、芸術的色彩をもつ扁額形式の大絵馬と、民間信仰的要素の強い吊懸形式の小絵馬という形式が生まれました。</p> <p>本図録では、古代からの絵馬の変遷を概観するとともに、県内の身近な絵馬から当時の社会風俗、祈願内容の多様性を紹介しています。</p> |
| <p>古代ペルシア展一シル クロードに栄えた工 芸と王朝文化一</p> <p>販売価格 1,800円 (送料340円)</p> | <p>ペルシアとは、中近東の中央に位置するイランの古代名で、メソポタミア文明とインダス文明との間で栄えた先進地で、中でも三世紀に興ったササン朝ペルシアの文化は、シルクロードを経由して中国の隋・唐時代の国際文化を形成するのに役立ち、正倉院宝物の中にも伝えられています。</p> <p>本図録では、古代オリエント博物館が所蔵する紀元前六千年紀から七世紀以降のイスラム時代までの土器、陶器、青銅器、偶像、武器、装身具などの考古資料をとおして、華やかな古代ペルシア文明を紹介しています。</p> |
| <p>チンギス・ハーンとその 末裔たち一大草原の 遊牧の民一</p> <p>販売価格 1,800円 (送料340円)</p> | <p>十三世紀に現在の内蒙古自治区の大草原の騎馬民族を統一したモンゴル民族のチンギス・ハーンとその後継者たちは、ユーラシア大陸の大部分を支配し、歴史上下内外に名をとどろかせたモンゴル大帝を建設しました。そして彼らの子孫たちは、元朝以降、明、清時代に至るまで、モンゴル族の貴族として草原を統治し、草原の中の中心的民族として栄華をきわめました。</p> <p>本図録では、中華人民共和国内蒙古自治区博物館が所蔵する、モンゴル民族チンギス・ハーンとその末裔たちが、生活に使用した騎馬用具、狩猟具、服飾、ゲール(住居)、宗教用具など、民族の特徴を反映している文物を紹介しています。</p> |
| <p>音の考古学一音具と 鳴器の世界一</p> <p>販売価格 1,800円 (送料340円)</p> | <p>人が作り出したさまざまな道具になかには「音」を発生させるために生み出されたものや、偶然にも音を発生させることになったものもあります。人と「音」とのかかわりは、わが国においては、縄文時代に初めて現れ、一時代に現れて消滅してしまっただけのものや、現在まで受け継がれてそれぞれに変遷を示すものも見られます。</p> <p>本図録では、縄文時代から平安時代にかけての音を出す考古資料を紹介しています。</p> |
| <p>南蛮美術と洋風画</p> <p>販売価格 2,400円 (送料340円)</p> | <p>戦国武将が活躍した近世期間、スペイン・ポルトガル人との交流の中で、エキゾチックで華麗な色彩を誇る南蛮美術が生まれました。それに続く江戸時代は、鎖国の時代でありましたが、オランダ(紅毛)や中国からもたらされる文物に触発されて、知的で好奇心に満ちた絵画・工芸品が数多く作られました。</p> <p>本図録では、神戸市立博物館が所蔵する南蛮、紅毛美術の名品を紹介しています。</p> |
| <p>東南アジアの民族造 形</p> <p>販売価格 1,800円 (送料340円)</p> | <p>東南アジアには数百を越すとされる民族が住み、伝統的生活文化を営みながら、結縁や地縁を基盤にした独自の歴史を築いてきました。</p> <p>本図録では、アジア民俗造形文化研究所長金子量重氏が30年間にわたり、東南アジア地域を調査した折りに収集した貴重な資料に焦点を当て、東南アジアの人々が日々用いている衣食住、祈り、芸能、学びの造形を紹介し、民族文化を明らかにするとともに、それらを見いだした社会風土を考え、我々日本人のアジア認識を高めていこうとするものです。</p> |
| <p>中国の美術一彫刻と 絵画一</p> <p>販売価格 1,500円 (送料340円)</p> | <p>本図録では、大阪市立美術館所蔵の阿部コレクションと山口コレクションから主要作品を紹介しています。</p> <p>特に、収蔵品中、宋の徽宗皇帝や清の乾隆帝秘蔵の名品をはじめ、中国の画論や画史に明記されてきた逸品を含む、唐から清代に至る各流派の絵画を網羅した阿部コレクションと、北魏・東西魏・北齊周から隋唐に至る紀年銘品や雲岡龍門をはじめとする石窟寺院から将来した品を有する山口氏の中国石仏コレクションは、ともに日本にある第一級の中国美術コレクションとして、世界的に名高いものであります。</p> |
| <p>幕末・農政学者 長島 尉信とその時代</p> <p>販売価格 1,300円 (送料340円)</p> | <p>長島尉信(やすのぶ)は、幕末激動の時代に筑波郡小田村(つくば市)の名主として、荒廢の目立つ農村の年貢徴収問題等の解決に尽力し、隠居してから農政学をはじめ政治経済、歴史、天文学、文学などの調査研究、著述、書写などに励み、数多くの貴重な資料を残しております。これらが幕末の志士をはじめ多くの人々を結びつけるネットワークの働きをすることになりました。</p> <p>本図録では、長島尉信の生涯を中心に幕末茨城の一端を紹介しております。</p> |
| <p>職一その技術と伝承一</p> <p>販売価格 1,200円 (送料340円)</p> | <p>「職」の起源は律令以前にまで遡ると言われ、早くから古代豪族の庇護のもとに多くの職能民が組織されました。近世にはいと、今日的職人の概念が確立し、単に生活の利便に供するだけではなく、奢侈的・装飾的分野の開拓が進んで、技術的にも高度で華麗な種々の業種・技術が生まれました。また、農業を基盤とする社会あって、生活の手段を異にする職人は、それぞれの職の本縁を語る祖神伝承や独自の信仰を守りながら、その中で職人氣質といわれる律義真法な気風を育ててきました。</p> <p>本図録では、これらの職人を「暮らしの中の職人」として位置づけ、豊富な資料を用いてその技の伝承を紹介しています。</p> |
| <p>常設展図録「茨城の 歴史を語る」</p> <p>販売価格 1,400円 (送料340円)</p> | <p>当歴史館2階展示室では、茨城県の古代から現代に至る本県の歴史の流れを、歴史的事象を映像システムや実物資料、レプリカ、模型、解説パネル等有機的に構成して分かりやすく概観できる歴史系総合展示を行っております。</p> <p>本図録は、これらの展示の解説書として作成しております。</p> |